

資料3-2 目標設定の事例

ケアマネジメントにおいて生活機能評価を行い、目標とする生活課題をより明確にすることで、運動器の機能向上サービスの効果を高めることが出来る。

生活機能評価をもとに、ひとりで難しいもの、何とかひとりでできるもの、楽に一人のできるものを明らかにし、参加者と話し合っ、サービス提供期間内で改善を希望する、生活課題を少数、設定する。

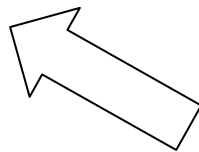
運動器の機能向上サービスでは、ケアマネジメントで設定された生活課題を遂行する上で、運動器の機能向上目標を1ヶ月毎に設定し、参加者と共有する。

【生活課題・目標設定の例（埼玉県和光市の事例）】

生活課題		目標
ひとりで 難しいもの	公共交通機関を使って外出する	**
	お風呂の掃除をする	
	掃除機をかける	
	新聞などの重たいゴミを出す	
何とか ひとりで できるもの	日常の買い物に出る	*
	ひとりで散歩する	
楽に ひとりで できるもの	身の回りの整頓をする	
	日常のゴミを出す	
	食事の支度をする	

** 何とかひとりでできるようになりたい項目

* 楽にひとりでできるようになりたい項目



運動器の機能向上サービスの目標		
1時間程度の外出で疲れない体をつくる		
到達目標	1ヶ月目	歩行能力を高めるための運動に必要な基本動作が自立して行える
	2ヶ月目	家の近所の散歩が楽にできる
	3ヶ月目	連続30分程度の歩行ができる。階段1階分を楽に昇降できる

【生活課題具体化の例（埼玉県和光市の事例）】

下表を用い、地域包括支援センターの職員が利用者の生活機能の主観的な評価を行い、基本的に○2、△1、△2、×1、×2について検討し、課題解決の優先順位を考え、本サービス等の提供によって向上が期待される生活課題を明らかにする。こうして明らかにされた生活課題は、利用者・地域包括支援センター・本サービス等の提供者と共有する。

【生活機能評価】

氏名	(ふりがな)	○ダ ○コ	女	調査日	事前	平成18年12月10日
		○田 ○子			事後	平成19年5月10日

	事前	事後	備考
室内歩行	○1	○1	
屋外歩行	○2	○2	限られた場所のみ
外出頻度	△1	○2	デイサービス以外の外出は少ない
排泄	○1	○1	
食事	○1	○1	
入浴	△1	○2	デイサービスで入浴に頼っている。能力はある。
着脱衣	○1	○1	
掃除	△1	○2	ヘルパーに頼っている。能力はある。
洗濯	○2	○2	大物以外は自立
買物	△1	○2	簡単なものは自分で。他はヘルパーや家族。
調理	△2	○2	
整理	○1	○1	
ごみ出し	○1	○1	
通院	△1	○2	家族付き添い。
服薬	○1	○1	
金銭管理	△1	△1	銀行へ行くのは家族に頼む。
電話	○2	○2	言語障害が軽度あるため、相手が聞き取りにくい。限られた相手のみ。
社会参加	△1	○2	

【判定基準】

自立度	自立		一部介助		全介助	
	楽にできる	少し難しい	改善可能性高い	改善可能性低い	改善可能性高い	改善可能性低い
判定	○1	○2	△1	△2	×1	×2